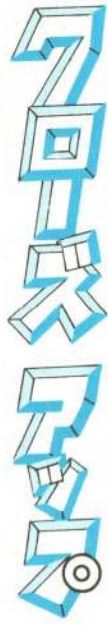


夢中熱中青春ライフ!

川口獅子踊り保存会



④

古くから伝えられてきた素朴な舞「獅子踊り」。今回は、一度途絶えていた獅子踊りを復活させ、その保存に努めている川口獅子踊り保存会を紹介します。会長の斎藤常彰さんにお話を伺いました。

青年会の仲間が復活に努力

川口の獅子踊りは、佐竹氏が秋田に転封後、大館に移り住んだ佐竹氏の家臣によって伝えられたんだそうです。その獅子



勇壮に舞う獅子踊り

踊りは戦争のため途絶えていましたが、昭和四十七、八年ころから再興にかかり、五十二年に復活し、現在に至っているんです。獅子踊りの再興は、当時の青年会の仲間が地域活動として後に残るものと始めたのがきっかけなんです。地域には踊りや笛、太鼓などを覚えていた人が一人いましたので、最初の一年間は毎晩のごとくその人から教えてもらいました。それに、習いたてで笛や太鼓はほとんど騒音でしたから、練習場所の確保にも苦労しましたよ。現在、会員は、小・中学生を含めて七十人くらいです。毎年旧盆の十三日には地域の墓地で、十四日には各町内をまわって踊りを披露しています。また、お祭りなどにも頼まれるようになりました。

獅子踊りは、やつこ踊り、



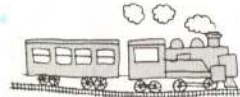
昨年の大文字まつりに出演したメンバーです

棒踊り、獅子踊りの順に踊るのが一般的なんです。でも、私的には棒踊りがないんですよ。それを覚えていた人がいなかったからで、とても残念です。

踊りをとおして連帯感や郷土愛を

私たちは、獅子踊りを復活させるのに非常に苦労しました。ですから、後継者の育成には力を入れてきました。その結果、下川沿中学校に獅子踊り正課クラブを発足できましたので、その子たちのほとんどは中学校を卒業しても、踊りを続けてくれます。私たちは、子供たちが単に郷土芸能の継承、保存としてだけでなく、その活動の中から生まれる連帯感や郷土を愛する心などを培ってほしいと思っています。

旭川発 → 大館着



前略

大館市民になりました⑤

▽今回は豊町にお住まいの西路雅晴さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか?
四人です。長男は桂城小学校、二男はホテヤ幼稚園に通っています。

Q・どちらから転入されましたか?
北海道旭川市から今年の四月に来ました。その前は静岡県沼津市に住んでました。私は北海道、妻は静岡の出身なんです。

Q・大館の印象はどうですか?
杉の木を初めて近くで見たんですが、真つすぐ空に伸びていて素晴らしいですね。それに、皆さんの人柄があったかく優しいですよ。ただ、駅前が少し寂しいし、商店街に活気がないですね。

Q・食べ物などはどうですか?
さきたんぼはまだ食べてないんですが、ジュンサイとトンブリは初めて食べました。とろっとしたジュンサイの舌ざわりが好きです。それに、お米がおいしいですね。妻はお米のせいで少し太ったと言っています。

Q・大館にどんなことを望みますか?
駅前はその都市の顔ですから、もっと整備したらと思います。大町にはもっと駐車場があつたらと思いますね。また、若い人が定着できるような基盤産業をどんどん増やすことと、近くに観光地がたくさんありますから、他へのPRを積極的にしたいと思いますね。



雅晴さん、康衣さん、長男 直樹くん(左)と二男 知矢くんです